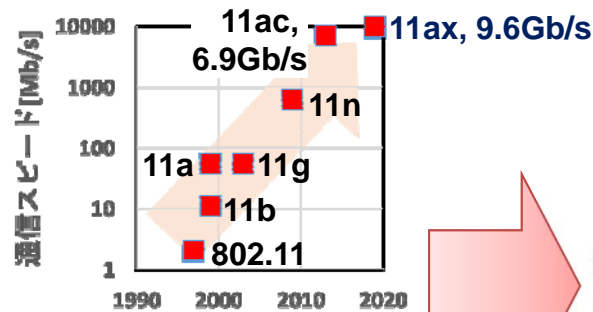


「無線LANのDFSにおける周波数有効利用の技術的条件に関する調査検討」の報告(概要)
～ IEEE802.11axの目的と展開領域 ～

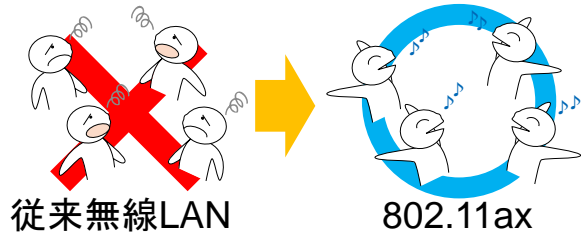
目的

- 無線LANシステム、無線LAN端末が多数ある環境でスループット(体感スピード)を最低4倍改善する

★通信スピード
が上がる
(11ac:6.9Gb/s
⇒ 11ax:9.6Gb/s)



★混雑した環境でも一人一人の
体感スピードが上がる (最低4倍)



★同じ周波数リソースで
多数の端末を収容できる

★同一端末数をサポートするのに
アクセスポイント数を減らせる

利便性の改善が期待される既存の領域



今後新たな展開が期待される領域ーIoT



平成29年度

「無線LANのDFSにおける周波数有効利用の技術的条件に関する調査検討」の報告(概要)
～ 動向調査及びとりまとめ結果 ～

諸外国の動向

IEEE標準化

- IEEE802.11の直近の会合の検討状況からすると、11axの標準化完了は2019年12月頃でほぼ確定

市場

- 2017年12月で主要チップベンダーからのドラフト対応サンプルのプレスリリースは、ほぼ出そろった
- 過去の11n、11acの事例から、市場は約1年半後に立ち上がると予想
 - 11n: 2006年1月 先行チップベンダーがドラフト対応サンプル出荷開始
– 1年5か月後→ 市場立ち上がり
 - 11ac: 2012年2月 先行チップベンダーがドラフト対応サンプル出荷開始
– 1年4か月後→ 市場立ち上がり

2019年5月頃制度化目標

参考:

11n標準化2009年9月⇒国内制度化2006年12月
11ac標準化2013年12月⇒国内制度化2013年3月

とりまとめ

速やかに制度化に向けた検討を開始

- 占有帯域幅の拡張
- 送信バースト長の拡張
- 5.6GHz帯ガードバンドの活用